

# 実施内容報告書

- 課題名 地衣類企画展における大型拡大模型を活用した展示の充実と地衣類の認知度向上
- 交付番号 23002
- 機関名 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
- 氏名 福田 孝

## 1. 事業の目的

地衣類は身近に生育しているものの認知度が低いため、地衣類をテーマにした企画展を開催する。この企画展において、乾燥標本や映像、写真とともに大型の拡大模型を活用することで、充実した展示と地衣類の認知度の向上を目指す。

## 2. 実施場所及び実施期間等

- ・実施場所 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
- ・実施期間 2023年4月1日～2024年1月21日
- ・企画展タイトル  
第88回企画展 地衣類—木を、岩を、地面を彩る身近な生きもの—
- ・会期 2023年10月7日～2024年1月21日

## 3. 事業の具体的内容

### (1) コウロコダイダイゴケ拡大模型の製作

本助成申請時の予定では、ウメノキゴケ *Parmotrema tinctorum* の拡大模型を製作する予定であったが、助成金額に合わせて変更し、図1のコウロコダイダイゴケ *Squamulea* aff. *Subsoluta* の100倍拡大模型を製作した。



図1 コンクリート上に着生するコウロコダイダイゴケ

製作においては、製作委託先である有限会社ティーアンドティーと綿密な打合せ（図2～図4）を行い、さらに何度かやり取りをする中で、より実物に近い形態を再現した。



図2. 製作初期段階



図3. 1回目の修正後 “子器(丸い部分)”の形及び端部の盛り上がりの様子と全体の色を調整



図4. 2回目の修正後(完成) “子器(丸い部分)”と“子器”の境目を明瞭化

本事業で製作したコウロコダイダイゴケ拡大模型(100倍、模型寸法; W500×H400×D300)と、当館予算で過年度に製作したコアカミゴケ拡大模型(50倍)、今年度に製作したウメノキゴケ拡大模型(7倍)の3点で、固着地衣、樹枝状地衣、葉状地衣という地衣類の基本的な3つの形態の拡大模型が揃った。これらを企画展で展示した。図5は展示の様子である。来館者に最初に観てもらえるよう、展示場所は企画展示室に入って最初のコーナーである「地衣類ってどんな生きもの？」のコーナーとした。



図5. 展示の様子

## (2) 実物標本の展示

展示の充実と地衣類の認知度向上のために、なるべく実物の地衣類を、それが着生する基物ごと展示することを考えた。具体的には、「こんなところに！地衣類が！！」というタイトルで、図6のようなガードレールやベンチ、ビニルハウスのネットや茅葺屋根のカヤに着生する地衣類などを収集し、その他の生態写真とともに展示した。



図6. 実物標本の展示「こんなところに！地衣類が！！」  
人工物に着生する地衣類を見て、「見たことある！」という声が多数上がっていた。

### (3) その他の展示

通常の展示では、標本を手にとって観察する機会はほとんどないと考えられる。そこで本企画展では、来館者に地衣類をより詳しく知っていただくために、図7のような樹脂封入標本を自作し、図8のように来館者が実際に標本を手に取り、ルーペや虫眼鏡で観察する機会を提供した。

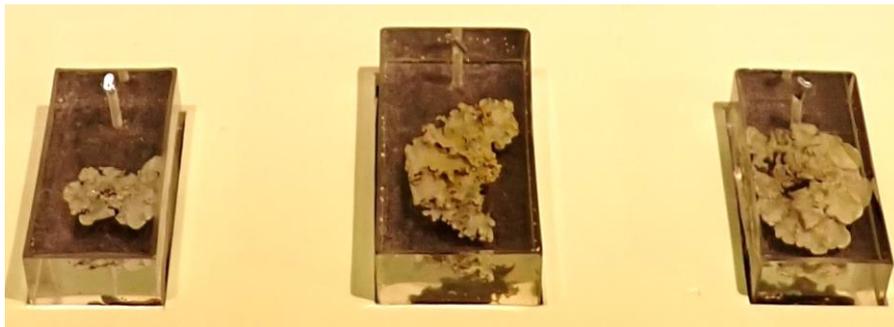


図7. 自作の樹脂封入標本



図8. 樹脂封入標本の展示の様子

樹脂封入標本は、一般的な展示用としてはアクリル樹脂を用いる。美しい仕上がりになるが、高価であり、傷つきやすくタッチング展示には向かない。従って本企画展では、安価でかつ万が一の

破損があっても修繕交換が容易なエポキシ樹脂を使用した。

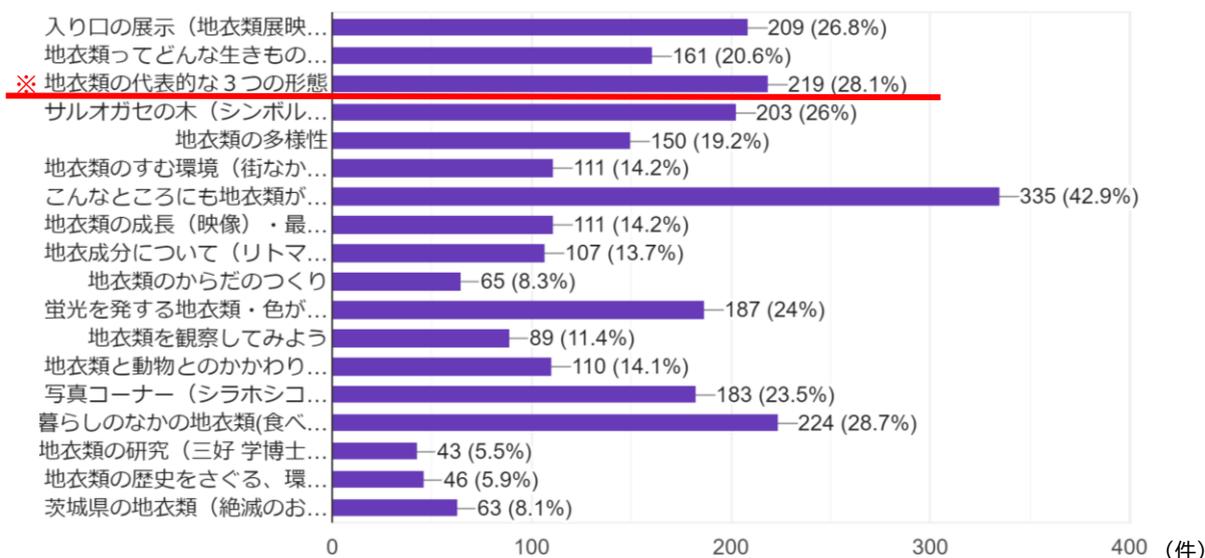
#### 4. 本事業の評価

本企画展は、101,877人に観覧いただくことができた。来館者に対して企画展観覧後にアンケートを実施し、「印象に残った展示」を選択式で調査した。また、企画展が「地衣類への興味喚起につながったか」、「今後行動が変容するか」を調査するとともに感想を自由記述式で尋ねた。

(アンケート実施期間 令和5年11月24日～令和6年1月21日 780件の回答)

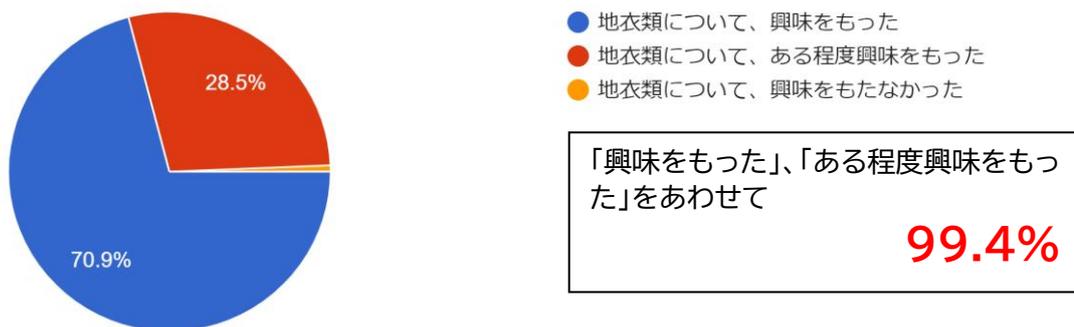
##### ・結果

質問1 今回の企画展で印象に残った展示について教えてください。(4つ以内)

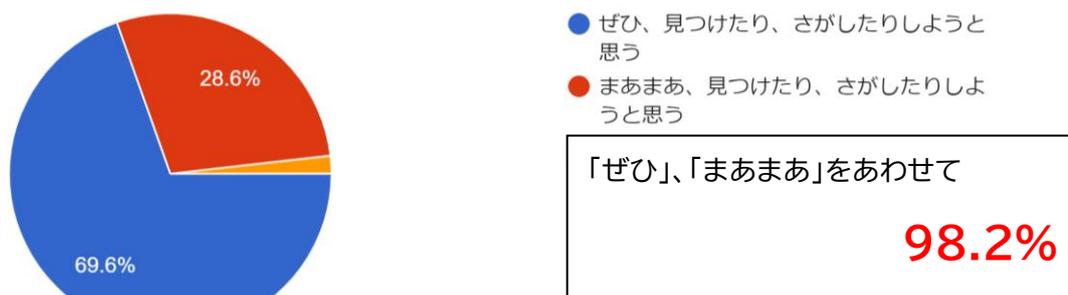


※は、大型拡大模型を指している。

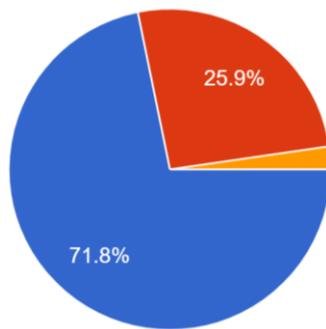
質問2 今回の企画展を見て、地衣類に興味をもつようになりませんか。(すでに興味をおもちの方も、より興味をもてたかという視点でご回答ください)



質問3 今後、地衣類を見つけたり、さがしたりしようと思いませんか。



質問4 地衣類展を見て、ふだん見ている風景の見え方に変化がありそうですか。(例：日常生活で地衣類に目が向くようになったり、地衣類展を思い出すようになる、など)



- 変化があると思う
- 少し変化があると思う
- 変化はあまりないと思う

「変化がある」、「少し変化がある」をあわせて

97.7%

#### 感想(抜粋)

- ・拡大模型がとにかくわかりやすかった
- ・実物に加えて効果的に模型を入れたりして、分かりやすくなっていたと思います。
- ・普段気にせず生活していましたが、地衣類、ハマりました！これから気にしてみたいです。
- ・今まで汚れたと思っていたものも、実は観察すると地衣類だったと分かりとても興味深く感じました。帰ってからも地衣類を探したいと思いました。観察してみようのコーナーもとても面白かったです
- ・地衣類も普段見ていたのに注目していなかったのが非常に興味深く、これから公園や散歩に行ったときに見方が変わりそうです。
- ・よく目にしているのになかなか気がつかない地衣類が色々あることがわかったので、これから気を付けてみたいと思いました。
- ・地衣類という言葉や、苔とかを別に気にしていなくて、でも、この企画展で地衣類のことがわかって楽しかったです。
- ・高校の授業でなんとなく地衣類のことは知っていたが、日常生活の中にこんなに地衣類があるとは思ってなかったので、非常に興味深く、街中を歩く時の世界観が広がりました。
- ・身近な所にこんなに菌がいたと思うと面白かったです！
- ・地衣類についてよく知らなかったのですが、とても興味がわきました。身近にこんな知らない世界があったなんて！これから、散歩の時もついつい地衣類をさがしてしまいそうです。
- ・地味で知られていない(~コケという名前のせいもあり誤解されやすい)地衣類について詳しく、また印象深い展示でとても良かったです。特に、手にとって地衣類の裏面なども見られる樹脂封入標本の展示が気に入りました。
- ・細かく、わかりやすい説明があって理解しやすく、ムービーや模型も多く飽きにくかったです。
- ・企画展では今まで名称くらいしか知らなかった地衣類の種類や魅力などたくさん知れて面白かったです！
- ・企画展の最後には、展示パネルにあった『地衣類を知ると、ものの見方が変わる』主役より、背景に目がいってしまう』という趣旨の言葉に共感することができた。
- ・生物についての興味はそれなりに持っているつもりでしたが、これまで、地衣類については全く何も知らず、意識すらしていませんでした。すっぱり抜け落ちていたと言えます。今回の展示で教えていただきましたように、それこそ周り中いたるところで目にしているにもかかわらずです。どれもみな“ただのコケ”だと思っていたわけですが、その迂闊さ加減に我ながらあきれています。

- ・地衣類はあまり興味がなかったが、見てみたらとても面白かった。今日来てよかったです。
- ・あまり世間に知られていない地衣類を取り上げてくださってありがとうございます。
- ・身近にあるのに知らない世界が広がっていて、コケだけど苔類じゃないというのが新たな発見でした。
- ・特別展もとても興味深い内容でした。知らなかったことを知れて、また生活が楽しく豊かなものになると感じました。
- ・すごく魅力的な展示で地衣類についてとても興味がわきました！
- ・地衣類という一般的には比較的地味な生き物を、わかりやすく親しみやすく紹介されていてとても勉強になりました。実際のベンチやガードレールが展示されていたのには驚きました！
- ・大きなレプリカと実際のサイズを見て、ギャップに驚いた。

#### ・大型拡大模型の展示について

アンケート調査の結果を見ると、印象に残った展示として、拡大模型を選択した来館者が多い（全回答者の28.1%が選択）ことが分かった。この選択肢は、全選択肢中3番目に多く選択されていた。1、2番目の選択肢（「こんなところにも地衣類が！！」、「暮らしのなかの地衣類」）は“コーナー丸ごと”の選択肢であるため、個別の展示物で考えると、実質的に拡大模型が最も印象に残った展示物といえる。地衣類の大型拡大模型を展示したことで、地衣類を知らない来館者に「地衣類という生きものが存在すること」を強烈に印象付けるとともに、特別な機器を用いずともその特徴を理解しやすくすることができたと考える。

#### ・地衣類の認知度について

アンケート調査の自由記述から、企画展を見る前から地衣類を知っていた（意識していた）来館者は少なく、本企画展を通して地衣類の存在を意識し、興味をもつようになったことがうかがえた。また、質問2～4の回答状況から、「地衣類の存在を知った」、「今後も地衣類を意識して見て行こう」という来館者の変容を確認することができた。これらの結果から、本企画展の開催により、地衣類への興味関心が高まり、認知度が向上したといえる。

### 5. 今後の課題

現在まで、国内では地衣類に関する企画展は数えるほどしか開催されていない。また地衣類の認知度が低いのは、そもそも地衣類という生きものを学校教育でほとんど取り上げないことが原因の一つと考えられる。一方、来館者アンケートでは「地衣類という生きものの魅力」に気付いたという記述が多かったことから、今後も継続的に地衣類についての情報発信が博物館には求められるといえる。今後は、常設展示にある地衣類展示に、大型拡大模型を移設できるよう努力したい。また、本企画展開催を受けて、複数の博物館から「地衣類展を開催したい」という希望も伺っている。その際には本事業で製作した大型拡大模型の利用を勧め、地衣類の理解認知度の向上のために本模型を活用したい。他にも、おもに教師に利用してもらうことを想定して、身近で見られる地衣類の簡単な図鑑を作成し、学校等に向けて発信したいと考えている。

### 6. 参考文献

- ・原色日本地衣植物図鑑，吉村庸，保育社，1974
- ・地衣類のふしぎ，柏谷博之，SBクリエイティブ，2009
- ・街なかの地衣類ハンドブック，大村嘉人 文一総合出版，2016

- ・里山の地衣類ハンドブック，柏谷博之・大村嘉人・文光喜，2020
- ・校庭のコケ，中村俊彦・原田浩・古木達郎，全国農村教育協会，2002